

国営大井川用水農業水利事業 完工記念誌

いのちの水 大井川用水

大井川水路橋

栃山頭首工

銘板（小笠幹線水路旧第2号隧道出口）

川口取水工（川口発電所）

大池調整池

農林水産省 関東農政局 大井川用水農業水利事業所

発行：平成30年3月

農林水産省

地域の概要

本地域は、静岡県のほぼ中央に位置している島田市ほか7市1町にまたがり、大井川及び瀬戸川の扇状地として形成された沖積平野と菊川、逆川等の沿岸の平野に広がる農業地帯です。

本地域の南側は、駿河湾と遠州灘に面していることから、温暖な気候に恵まれており、水稻を中心にレタスやトマト等の野菜類の生産が行われ、遠州灘に面した畑地帯では、いちごや温室メロン、さといも等の生産が行われるなど、年間を通じて豊かな農産物の生産が行われています。

また、東海道本線、東名高速道路及び新東名高速道路が地域を東西に横断しているため、交通の利便性が高く、これらを通じて、多くの農産物が県内はもちろんのこと、京浜方面や中京方面へ供給されています。

位置図



吉田町の受益地



掛川市の受益地（遠州灘沿岸）

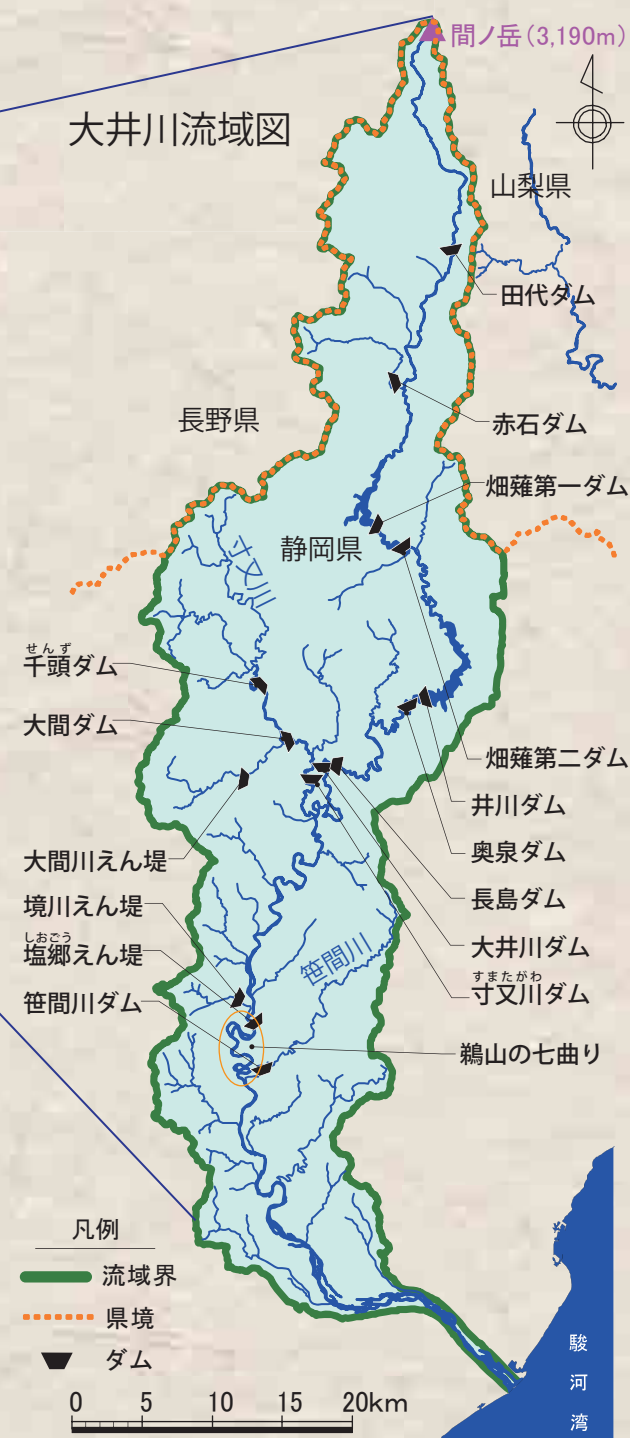
大井川の概要

大井川は、静岡県の中部に位置し、山梨県、長野県、静岡県の県境に位置する南アルプス間ノ岳（標高 3,190m）を源とし、静岡県の中央部を南北に貫流しながら駿河湾に注ぐ、幹川流路延長 168km、流域面積 1,280 km²の日本有数の急流河川です。

上流部は、大規模崩壊地が多く、深いV字谷が形成されています。中流部は、大蛇行地帯が形成され、「鵜山の七曲り」と呼ばれる蛇行は静岡県の天然記念物に指定されています。一方、下流部は、広大な扇状地が広がっています。

流域の年平均降水量は、3,100mm（日本の年平均降水量：1,750mm）と多雨であるため、大井川は水量が豊富なのが特徴です。

大井川流域図



大井川中流部 鵜山の七曲り
(写真:スカイテックフライングアカデミー/島田市観光協会)

江戸時代には、「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と馬子唄に詠われていたように、大井川は東海道随一の難所として知られていました。



富嶽三十六景 東海道金谷ノ不二（葛飾北斎）

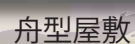
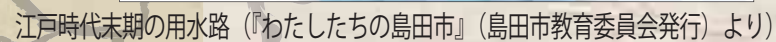
明治時代末期には、この豊富な水量が水力発電に利用されるようになり、大井川には水力発電用のダム・えん堤が順次設置され、現在では重要な電源地帯となっています。

また、上流部は森林資源に恵まれており、江戸時代から材木として利用されてきました。かつては、材木を筏で流し運んだため、谷口部に当たる島田市は、木材の集積や加工など木材産業の拠点となり、明治～大正～昭和にかけて、“木都”として発展しました。



水害の多かった志太・榛原地域

なお、大井川平野では、度重なる洪水被害から、屋敷の周囲を上流側に閉じたV字型の堤防で囲む「舟型屋敷」や「三角屋敷」といった、水害に強い独特の屋敷が江戸時代に建てられており、今でも残っているものがあります。



(1603 ~ 1868) 江戸時代	加茂用水の完成 (1594)
	上当間用水の完成 (1634)
	けんもつがわ 監物川の開削 (1640 年頃)
	むくや 向谷用水の完成 (1645)
	嶺田用水の完成 (1678)
(1868 ~ 1926) 明治・大正	木屋用水の開削 (1690 年代)
	本間隧道の完成 (1876)
	大井川疏水計画の策定 (1888)
	日英水電 (株) こやま 小山発電所の完成 (1910)
	東海紙料 (株) じな 地名発電所の完成 (1910)
(1926 ~ 1989) 昭和	栃山川沿岸用排水幹線改良事業完成 (1930)
	国営大井川農業水利事業 (1947 ~ 1968)
	大井川総合開発計画の策定 (1948)
	国営大井川土地改良事業計画の決定 (1951)
	井川ダムの完成 (1957)
(1989 ~) 平成	川口発電所の発電開始 (1960)
	広域農業開発基本調査 (1990 ~ 1992)
	静岡県による調査 (1991 ~ 1992)
	地区調査 (1993 ~ 1996)
	全体実施設計 (1997 ~ 1998)
	国営大井川用水農業水利事業 (1999 ~ 2017) (計画変更 (2009))



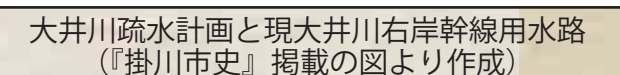
水不足に悩まされた小笠地域

小笠地域の農民にとって水不足の解消は切実な願いでしたが、水不足は大正、昭和に入っても続くことになりました。



Map of the Shizuoka Prefecture area showing the locations of the 'Shizutani-Hosokura' (志太・榛原) and 'Kosaka' (小笠) regions. The map includes labels for cities like Hamamatsu (浜田市), Fuji (富士市), and others, as well as rivers like Tenryu (天竜川) and Sagami (相模川).

地域	市町名	ため池数（平成 28 年）	
		市町別	合計
志太・ 榛原地域	島 田 市	11	100
	焼 津 市	—	
	藤 枝 市	9	
	牧之原市	80	
	吉 田 町	—	
小笠地域	掛 川 市	228	424
	袋 井 市	52	
	御前崎市	49	
	菊 川 市	95	



「大井川用水」の開発と利用

国営大井川農業水利事業（旧国営事業）の実施

昭和 20 年代に入ってから大井川の両岸では用水の取り入れは、江戸時代のいりひ 堰を起源とする取入口で行っていました。これらは構造も古く、渇水時はもちろん、通常の取水も困難な状態に陥っていました。このため、農林省（現農林水産省）では、水不足への抜本的な対策と水利施設の近代化のため、昭和 22 年度から国営大井川農業水利事業を実施することを決定しました（7 ページコラムを参照）。

当初は、大井川に設けられていた 15 か所の取入口のうち 12 か所を 1 か所の頭首工（島田市赤松）に統合し、新しい用水路を造り、志太・榛原地域へ水を送る計画でした。

志太・榛原地域での用水計画が動きはじめると、ため池に依存した不安定な農業を行っていた小笠地域でも、水不足解消のため安定した水源の必要性の訴えが続きました。このため、昭和 26 年 4 月に大井川総合開発計画の一環として事業内容を見直し、取水地点を大長村（現島田市）の赤松から上流の神座に移すとともに、大長村（神座）並びに大井川右岸のごか 五和村及び金谷町、小笠郡等の町村の受益地を編入した、土地改良法に基づく事業計画としました。

また、昭和 27 年 10 月には、本事業も大井川総合開発計画に加わり、取水地点を更に上流に移し、中部電力株式会社の井川ダムから連なる川口発電所の放水を直接取水する計画とし、幹線用水路の一部区間を中部電力株式会社との共同事業として実施することとしました。

国営大井川農業水利事業（旧国営事業）の概要

項 目	内 容
関係 市町村※	島田市、焼津市
	志太郡 大長村、大津村、六合村（以上現島田市）、青島町、大洲村、高洲村（以上現藤枝市）、大富村、小川村、豊田村、和田村、相川村、静浜村、吉永村（以上現焼津市）
	榛原郡 吉田町（現吉田町）、初倉村（現島田市）、坂部村、川崎町（以上現牧之原市）、五和村、金谷町（以上現島田市）
	小笠郡 河城村、六郷村、横地村、平田村、小笠村、南山村（以上現菊川市）、千浜村（現掛川市）、池新田町、新野村、朝比奈村（以上現御前崎市）、堀之内町、加茂村、内田村（以上現菊川市）、佐束村、土方村、大坂村、睦浜村、大淵村、横須賀町（以上現掛川市）、笠原村（現袋井市）、東山口村、桜木村、和田岡村、西山口村、中村、掛川町、西郷村、曾我村（以上現掛川市）
	磐田郡 久努村（現袋井市）
受益面積	11,588ha（うち畑 510ha）
主要施設	取水工 1 か所、頭首工 1 か所、調整池 3 か所、幹線水路 13 路線 89 km
事業費	国営事業費 5,502 百万円、中部電力株式会社施工 604 百万円
工期	昭和 22 年度～昭和 43 年度

※関係市町村の記載順は、『農林省大井川農業水利事業計画書（昭和 26 年 3 月）』を基本とした。

川口発電所の取水工からは、かんがい期には最大 39 m³/s もの用水が取水され、島田市神座に設置した神座分水工までトンネルで運ばれ、志太・榛原地域及び小笠地域に分水されます。

志太・榛原地域に用水を送る幹線水路は 6 本に分岐し、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市及び吉田町を潤します。小笠地域に用水を送る幹線水路は、水路橋で大井川を渡り、牧之原台地をトンネルで流下した後、掛川市、袋井市、御前崎市及び菊川市を潤します。



川口取水工



旧大井川水路橋 L=700m



旧大井川サイホン L=828m（昭和 27 年当時）



赤松第一分水工（現赤松分水工）

旧国営事業の工事は、現在のように建設技術が発達していなかった時代のため人力に頼る部分も多く、また、取水工位置の変更や受益地の編入など 4 回にわたる事業計画の見直しや変更が行われたため、事業期間は 22 年間にも及び、昭和 43 年度ようやく完成を迎えました。



菊川頭首工（昭和 39 年当時）



竣工式（昭和 43 年 8 月 25 日）

地元農民の悲願であった旧国営事業

時は戦後直下。志太郡では、政府が割り当てた供出米の確保ができない状況に陥っていました。これを打開するには、不安定なかんがい用水の状況を1日も早く克服するしかないとして、昭和21年5月から7月にかけて大井川左岸の志太郡15町村から大規模農業水利事業の施行を求める機運が一気に高まりました。これは、当初は県営事業として構想されましたが、静岡県への勧めもあって、昭和21年11月1日に農林省開拓局（現在の農林水産省農村振興局）に国営事業としての施行を陳情することになりました。その後、大井川右岸下流部の榛原郡4町村も用水不足だったので本事業に加わることになり、両郡で和田博雄農林大臣等に要請活動をした結果、農林省は翌昭和22年1月13日に「昭和22年度から国営で農業水利事業を施行する」旨を地元へ伝達しました。地元農民の悲願がなかった瞬間です。

そして、昭和26年4月には、本事業は大井川総合開発計画の一環として事業計画を見直すことと、志太・榛原郡の6,376haに加えて、大井川右岸の小笠郡等の4,500haを編入することについて土地改良法による手続を完了しました。ここに、山崎千三郎が明治21年に夢見た、大井川から取水した用水を小笠地域へ配水する計画が、60年を経てかなうことになりました。

この旧国営事業によって、江戸時代から続いた志太・榛原地域及び小笠地域の水不足は解消され、静岡県内屈指の農業地帯が形成されました。



静岡新聞（昭和43年8月26日朝刊）

重要な電源地帯を形成する大井川水系

大井川水系における水利用の概要

大井川水系は、水量が豊富なことから、明治時代末期より水力発電に利用されてきました。

昭和20年代以降は、大井川総合開発による井川ダムを始め多くのダムやえん堤が築かれ、重要な電源地帯を形成するとともに、洪水調節や、安定した農業用水、工業用水及び水道用水の供給が図られました。



井川ダム



川口発電所



現在、大井川水系では、中部電力株式会社の発電設備として14か所の水力発電所が稼働しています。年間発電電力量は全体で約22億kWで、これは、一般家庭の約61万世帯が1年間で消費する電力量に相当します。このほかに、赤松発電所（特種東海製紙株式会社）や、田代ダム（東京電力ホールディングス株式会社）による発電所が稼働しているほか、特定多目的ダムとして国土交通省により長島ダムが建設されています。

大井川用水を未来へつなぐ

国営大井川用水農業水利事業の実施

当初計画

大井川用水の基幹水利施設は、昭和 22 年度から昭和 43 年度に施行された国営大井川農業水利事業で整備されましたが、事業完了後 30 年が経過し、施設の老朽化による機能低下が生じていました。また、営農形態の変化等による用水需要の変化や、周辺地域の開発等による水田排水からの再利用可能量の減少やため池の減少等による用水不足から、安定的な用水供給や適正な水配分が困難な状況になっていました。

このため、本事業及び関連事業によって地区内の水利施設の再整備を行うことにより、農業用水の安定供給、合理的利用及び管理方法の改善を図り、本地域の農業経営の安定を図ることを目的に、国営大井川用水農業水利事業を平成 11 年度に着手しました。

また、川口取水工、大井川幹線水路、大井川左岸幹線水路、赤松幹線水路（上流部）、向谷幹線水路（上流部）は、農業用水のほか水道用水、発電用水及び工業用水との共有施設であり、各事業者との共同事業として実施しました。

変更計画

当初計画の目的に、本地区の農業用水が従来から有している地域用水機能（防火用水、景観保全）の維持・増進を図ること（後述）を加えるとともに、一部の末端用水路を取り込んで、平成 21 年 8 月に国営農業用水再編対策事業（地域用水機能増進型）として事業計画を変更しました。

なお、用水を再編する中で、関連事業として編入を予定していた「相賀」^{おうか}、「大津」（以上島田市）、「坂部」^{かみたるき}（牧之原市）及び「上垂木」^{ゆけ}、「遊家」^{はつま}、「初馬」（以上掛川市）地区を国営受益地として新たに取り込みました。

事業の概要

項 目	内 容
関係市町※	島田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、大井川町（現焼津市）、榛原町（現牧之原市）、吉田町、金谷町（現島田市）、大須賀町（現掛川市）、浜岡町（現御前崎市）、小笠町（現菊川市）、菊川町（現菊川市）、大東町（現掛川市）
受益面積	7,450ha（水田 6,861ha、畑 589ha）
受益者数	25,438 人（平成 21 年 3 月時点）
工期	平成 11 年度～平成 29 年度
総事業費	55 1 億円（予定（国営事業費））
共同事業者	水道用水：島田市 発電用水：東海パルプ株式会社（現 特種東海製紙株式会社） 工業用水：東海パルプ株式会社（現 新東海製紙株式会社）

※関係市町の名称及び記載順は、『国営大井川用水土地改良事業計画書（平成 12 年 2 月）』による。

主な工事内容

取水工

施 設 名	最大取水量	構 造 形 式
川口取水工	(37.30 m ³ /s) 35.10 m ³ /s	鋼製ローラゲート（4.8m×4.8m） 1 門

注：上段（ ）は上水、工水及び発電用水を含む取水量。

頭首工

施 設 名	最大通水量	構 造 形 式	堰 高	堰 長
枋山頭首工	14.86 m ³ /s	フローティングタイプ全可動堰	3.1m	38.5m
菊川頭首工	2.20 m ³ /s	フローティングタイプ全可動堰	0.9m	32.1m

用水路工

施 設 名	最大通水量 (m ³ /s)	施工延長 (km)	施 設 名	最大通水量 (m ³ /s)	施工延長 (km)
大井川幹線水路	35.10 (37.30)	—	小笠幹線水路	10.04	4.3
大井川左岸幹線水路	24.93 (33.80)	0.3	菊川幹線水路	7.27	1.9
赤松幹線水路	24.88 (27.08)	1.5	菊川右岸幹線水路	2.87	3.8
向谷幹線水路	5.80 (8.00)	7.3	菊川左岸幹線水路	2.20	3.2
志太榛幹線水路	14.86	0.8	掛川幹線水路	1.85	3.5
志太幹線水路	6.82	2.2	末端用水路 (28 路線)	3.16 ～ 0.05	74.2
榛原幹線水路	6.93	1.0	計		104.0

注：（ ）は上水、工水及び発電用水を含む通水量。

調整池

施 設 名	貯水容量	整備内容	設置幹線水路
大池	252,000 m ³	拡張、調整池化	掛川幹線水路
七曲池	230,000 m ³	拡張、調整池化	菊川右岸幹線水路
谷田大池	131,000 m ³	調整池化	菊川左岸幹線水路
大胡桃池	89,000 m ³	新 設	菊川左岸幹線水路
篠ヶ谷池	70,000 m ³	新 設	菊川左岸幹線水路

注：各幹線水路の附帯施設。

小水力発電施設

施 設 名	最大出力	発電最大 使用水量	落差	形 式	
				発電機	水車
伊太発電所	893kW	17.00 m ³ /s	約 7m	横軸回転界磁三相 同期発電機	横軸円筒可動羽根 プロペラ水車

注：赤松幹線水路の附帯施設。

水管理施設

施 設 名	施設数	備 考
管理所	2 か所	中央管理所、右岸支局
遠方監視制御施設	32 か所	川口取水工、神座分土工ほか
遠方監視施設	12 か所	枋山頭首工、大井川水路橋ほか

国営大井川用水農業水利事業 事業概要図

⑨ 大井川水路橋



⑩ 横岡分水工



⑪ 伊達方分水工



⑫ 掛川幹線水路（逆川横断工）



⑬ 大池



⑭ 右岸支局



⑮ 菊川頭首工



⑯ 大胡桃池



⑰ 篠ヶ谷池



① 川口取水工



② 神座分水工



③ 伊太発電所



④ 中央管理所



⑤ 栃山頭首工



⑥ 志太樺分水工



⑦ 大井川サイホン



⑧ 瀬戸川左岸幹線水路



凡	例
	受益地(田)
	受益地(畑)
	国営用水路
	国営用水路(トンネル・サイホン・暗渠・管水路)
	国営既設用水路
	国営調整池
	国営取水工
	国営頭首工
	支線整備区間(国営)
	支線既補修用水路
	支線関連事業整備区間
	県営既設頭首工
	県営調整池
	旧市町界

国営大井川用水農業水利事業による効果

重要施設に耐震性を確保

本事業では、重要度の高い施設について、想定される東海地震のレベル2地震動※¹にも耐えられる耐震性を確保し、地震発生による致命的な損傷を防止するようにしています。

大井川水路橋（小笠幹線水路）

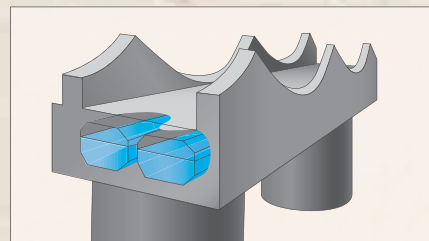
（事業概要図 施設番号⑨）

大井川水路橋は、小笠地域約3,700haに用水を供給する唯一の重要施設です。

旧水路橋（L=700m）は、旧国営事業で島田市神座～横岡間に昭和32～35年度に建設されましたが、経年劣化が進むとともに、大井川の河床低下や洗掘により橋脚の基礎が露出するなどしていたため、下流100mの位置にプレストレストコンクリート※²造の新たな水路橋（L=732m）を建設しました。



大井川水路橋（左岸下流側より）



水路橋の断面



フィンバック※³箱桁橋

大井川サイホン（榛原幹線水路）

（事業概要図 施設番号⑦）

大井川サイホンは、大井川右岸の下流部約900haに用水を供給する重要施設です。

旧サイホン（L=828m）は、旧国営事業で昭和25～27年度に建設されましたが、内部漏水が発生するとともに、大井川の河床低下によりサイホン上部が露出するなどしていたため、250m下流の位置に新たなサイホン（L=910m）をシールド工法※⁴で建設しました。



大井川サイホン（破線部）

栃山頭首工の全面改修

（事業概要図 施設番号⑤）

栃山頭首工は、大井川左岸地域約3,400haへの用水供給の要となる重要施設です。

大井川の支川である大津谷川の下流部で、静岡県が栃山川沿岸用排水幹線改良事業（下記コラムを参照。）により昭和の初期に整備した「放水門」を旧国営事業で赤松第二分土工として整備しましたが、経年による老朽化に伴い、40m下流に栃山頭首工として改築し、放水門の上流で取水していた榛原幹線及び庄右エ門用水と、下流の志太頭首工から取水していた志太幹線を合口しました。



栃山頭首工（下流側より）

じじゅうごさけんのち 「侍従御差遣之地」記念碑

栃山頭首工に隣接して整備された栃山親水公園には、二つの石碑が建てられています。

一つは、「栃山川放水路碑」であり、豪雨のたびに氾濫して壊れたり、渇水のたびに水不足が起きていた栃山川が、県営栃山川沿岸用排水幹線改良事業（大正15年度～昭和5年度）で整備された記念として建てられています。

もう一つは、「侍従御差遣之地」記念碑であり、昭和5年5月に昭和天皇が静岡県下の民情や産業の視察に巡幸された際、県営栃山川沿岸用排水幹線改良事業で整備された「放水路」の模型や図面が天覧の栄を得たばかりでなく、黒田侍従を現地に派遣し視察させられたことを記念して建てられています。

特筆されるのは、この碑の裏面にある撰文において、当時の静岡県知事が「この盛事は（中略）正に進出途上に在る、我が国農業土木界に画期的の光明を発揚せられたるものと謂うべし」と謳っていることです。



栃山川放水路碑



「侍従御差遣之地」記念碑

※¹ 建造物の耐震設計に用いる入力地震動で、当該地点で考えられる最大級の強さを持つ地震動。

※² コンクリートにあらかじめ圧縮力を加え、引張強度を増加させたコンクリート。

※³ フィンバックとは、魚の「背びれ」のこと。背びれのように上に飛び出した部分に埋め込まれたPC線（鋼線）が橋桁を引っ張り上げている。桁の厚さを薄くすることができる。

※⁴ 「シールド」と呼ばれる掘削機で地中にトンネルを構築する工法。

施設の改修によるライフサイクルコストの低減

本事業では、破損や維持管理に支障が生じていた用水路やゲート等の改修を行うことによって、耐用年数の延伸や維持管理労力が軽減され、修繕等に係る費用及び将来の更新費用等のライフサイクルコストの低減を図りました。

ゲート設備の更新



大井川用水の総取入口「川口取水工」
(事業概要図 施設番号①)



神座用水と大井川左右岸に分水する
「神座分水工」(大井川幹線水路)
(事業概要図 施設番号②)

幹線用水路の改修



新築した「志太榛分水工」(志太榛幹線水路)
(事業概要図 施設番号⑥)



改修した「横岡分水工」(小笠幹線水路)
(事業概要図 施設番号⑩)

暗渠の改修



管更生工法により改修した「掛川幹線水路」
(逆川横断工) (事業概要図 施設番号⑫)

末端用水路の整備



更新した「瀬戸川左岸幹線水路」
(事業概要図 施設番号⑧)

小水力発電による土地改良区の維持管理費の軽減

本事業では、大井川用水の農業用水で発電する小水力発電施設を建設しました。発電した電気は売電し、その収益を農業水利施設の維持管理費に充当することで、土地改良区の維持管理費の軽減を図っています。

県内初の小水力発電施設「伊太発電所」の整備 (事業概要図 施設番号③)

赤松幹線水路の落差工の改修に併せて、用水路の落差を利用して発電を行う小水力発電施設「伊太発電所」を島田市伊太に建設し、平成25年7月から稼働しています。

本施設は、発電水量を農業用水に完全従属[※]するほか、老朽化した落差工に換えて建設することによりコスト低減を図りました。

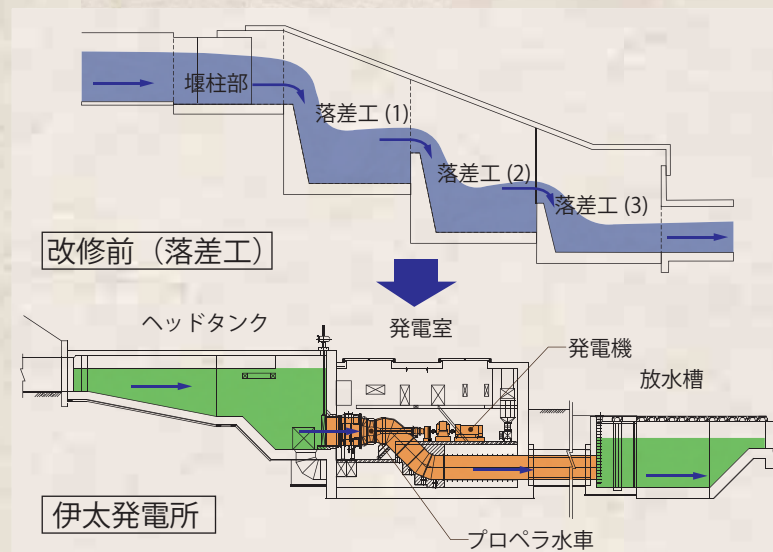
年間発生可能電力量は約430万kWhであり、一般家庭約1,200世帯が1年間に消費する電力量を賄える計算になります。また、CO₂排出削減量は1年間に約2,200tであり、これは杉約16万本が1年間に吸収するCO₂量に相当します。



伊太発電所

※発電の使用水量を農業用水として使用する水量に限定すること。

発電模式図



所在地	島田市伊太
最大出力	893kW
発電方式	流れ込み式 (水路式)
使用水量	最大 17 m ³ / s
有効落差	約 7 m
水車形式	プロペラ水車 (S形チューブラ水車)

発電した電気は、全量を中部電力株式会社へ売電し、売電額は、伊太発電所の運転経費に充てるほか、4土地改良区(大井川土地改良区、大井川右岸土地改良区、金谷土地改良区及び神座土地改良区)が管理する農業水利施設の維持管理費に充当しています。



静岡新聞
(平成25年7月14日朝刊)

末端用水路の整備による地域用水機能の維持・増進

末端用水路を整備することにより、本地区の農業用水が従来から有している地域用水機能の維持・増進を図りました。

東海地震の想定震源域の公表が契機



東海地震の想定震源域と予想震度分布図
(気象庁ホームページより)

本地区の農業用水は、かんがいの目的に利用されているだけでなく、火災時の消火用水源として使用されているほか、地域住民に身近な水辺環境として地域の憩いの場を提供しています。こうした中、平成 13 年 6 月の東海地震想定震源域の公表をきっかけに、これまで防火用水として活用し、地域の良好な景観を形成してきた大井川用水を守らなくてはならないとの機運が農業者のみならず地域住民からも高まりました。この結果、4 土地改良区（大井川土地改良区、大井川右岸土地改良区、金谷土地改良区及び神座土地改良区）、関係市町及び静岡県等により、防火用水及び景観保全の地域用水機能を維持・増進するための「地域用水環境整備計画」が平成 19 年 1 月に取りまとめられました。

このため、「地域用水環境整備計画」を基に、本事業では、基幹水利施設の改修と併せて一部の末端用水路の改修等を行い、県営事業等では、防火用水や景観保全に資する施設整備を行いました。

地域用水機能は、土地改良区のみならず、自治会や地元企業又はこれらを構成員とする活動組織といった多様な参画を得て、草刈りや水路の清掃、補修作業等により維持されています。



末端用水路の防火施設



放水訓練（栃山川防災訓練）



末端用水路沿いの桜並木



清掃活動（瀬戸川左岸幹線水路）

「大井川用水」による農業経営の発展

地区内では、高付加価値型農業を始め先進的な経営を行っている農業者も多く、これに大井川用水が有効に活用されています。

「大井川用水」が営農の自由度を高める

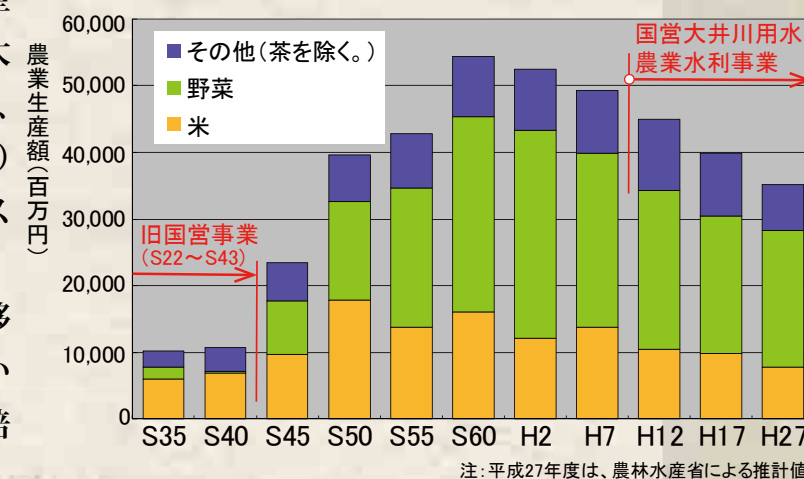
国営事業や県営事業等による用水の整備によって、本地域の農業粗生産額は大幅に増加しました。特に、野菜（レタス、トマト、いちご、メロン、ねぎ、だいこん等）の生産額の伸びが顕著となり、冬レタスやメロン等の産地形成に寄与しています。

本地域の農業粗生産額は、全国の推移と同じく昭和 60 年をピークに減少しているものの、昭和 35 年と比べて、約 3.4 倍の 352 億円となっています。

地区内の農業者からは「大井川用水のおかげで水不足を心配することなく営農ができる」、「大井川用水は冬場にも用水があるので計画的に野菜の栽培ができている」などの声が聞かれます。

大井川用水は、今後も多彩な農産物を産出する本地区の農業の更なる発展に寄与します。

農業粗生産額の推移（大井川用水地区関係市町）



地域の代表的な農産物



水稻（酒造好適米を含む。）



レタス



神座みかん



いちご



メロン



トルコギキョウ

本地域では、昭和 30 年頃に水田裏作の作物として吉田町等にレタス栽培が導入されています。当時、日本人には馴染みのない野菜でしたが、アメリカ人の目に留まり、駐留米軍へ供給されるようになり、作付面積が増え昭和 44 年には志太・榛原地域が冬レタスの野菜指定産地となり発展してきました。